

ウンシュウミカンにおける効率的なカンキツかいよう病の防除対策

果樹試験場 主査研究員 武田 知明

【要約】

ウンシュウミカンのかいよう病を効率的に防除するには、発芽前に園内の発病葉を確認し、発病が認められる場合は、発病葉のせん除と3月下旬（発芽直前）の塩基性硫酸銅剤（以下銅剤、商品名：ICボルドー66D）の散布を実施する。

【背景・ねらい】

カンキツかいよう病は、従来、本病に弱い一部の品種（甘夏やレモン等）で問題となってきた。しかし近年、集中豪雨の頻発により、本病に比較的強いウンシュウミカンにおいても多発する場合がある。そこで、ウンシュウミカンにおける本病の省力的かつ効果的な防除体系を構築する。

【成果の内容・特徴】

- 1) 3月（葉芽発芽前）の発病葉率は10月の発病果率と高い相関が認められたため、防除要否の判定に利用できる（データ省略）。
- 2) 銅剤の散布時期と散布回数について検討した結果、3月下旬（発芽直前）の1回散布で高い防除効果が得られた（データ省略）。
- 3) 防除効果は、発病葉をすべて除去した①区で最も高く、次いで発病葉率2%まで除去したうえで3月下旬に銅剤を散布した④区、3月下旬の銅剤散布のみ行った③区と続いた（表1）。発病葉を葉率2%まで除去しただけでは効果が不十分であった（②区）。除去する際に発病葉を見落とすことを考慮し、発病葉を葉率2%程度まで除去したうえで3月下旬に銅剤を散布することが最も有効な防除方法だと考えられた。

表1 伝染源の除去と薬剤散布の有無がウンシュウミカンにおけるかいよう病の発病に及ぼす影響(2022年)

試験区	処理概要		葉の発病(7月11日調査)				果実発病(9月23日調査)			
	伝染源(発病葉)の除去	薬剤散布	調査葉数	発病葉率(%)	発病度	防除価	調査果数	発病果率(%)	発病度	防除価
①	すべて除去	-	800	0.0	0.0	100	400	0.0	0.0	100
②	発病葉率2%まで除去	-	800	3.6	0.6	71	371	3.2	1.5	0
③	-	3月28日に散布	800	1.4	0.2	90	374	0.3	0.04	96
④	発病葉率2%まで除去	3月28日に散布	800	0.6	0.2	90	400	0.0	0.0	100
⑤	-	-	800	10.0	2.1		383	5.0	1.1	

供試樹: 宮川早生(14年生)、1区につき4樹を供試

供試薬剤: 塩基性硫酸銅剤(ICボルドー66D)60倍+パラフィン系展着剤(アピオンE)1,000倍

調査方法: 伝染源密度を高めるため2021年5月と10月に葉に対してかいよう病菌を接種。2022年3月(試験開始時)に1区あたりの発病葉率が17~18%となるよう試験区を設置。発病葉の除去は3月23日(発芽前)に実施。発病は1樹あたり200葉もしくは100果(100果に満たない場合は全果)を調査。